大妻さくら フェスティバル 2021

日時：3月27日（土）

主催：大妻女子大学
後援：千代田区、大妻コタカ記念会、大妻中学高等学校、
千代田区内協力大学：共立女子大学、城西大学、上智大学、専修大学、
東京家政学院大学、二松学舎大学、日本歯科大学、日本大学、法政大学、明治大学
協賛：千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム

大妻女子大学短期大学部　1年　松本 七海

目　次

巻頭あいさつ　1

千代田区長　樋口 高顕

大妻学院 理事長／大妻女子大学 学長
伊藤 正直
一般財団法人大妻コタカ記念会 会長
井上 小百合

大妻さくらフェスティバル実行委員長／
大妻女子大学地域連携推進センター所長
井上 美沙子

「千代田のさくらまつり」に寄せて　5

共立女子大学／共立女子短期大学
学長 川久保 清

城西大学　学長 藤野 陽三

上智大学　学長 曄道 佳明

専修大学　学長 佐々木 重人

東京家政学院大学　学長 廣江 彰

二松学舎大学　学長 江藤 茂博

日本歯科大学　生命歯学部長 沼部 幸博

日本大学　学長 加藤 直人

法政大学　総長 田中 優子

明治大学　学長 大六野 耕作

千代田学事業報告　11

共立女子大学　教授 伊藤 裕才

上智大学　嘱託講師 島崎 崇史

専修大学　教授 岩尾 詠一郎

東京家政学院大学　教授 酒井 治子

二松学舎大学　専任講師 谷島 貫太

日本歯科大学附属病院
講師・総合診療科 1 診療医長 中西 生美

法政大学　教授 岩佐 明彦

明治大学　准教授 島田 剛

地域連携プロジェクト報告　29

家政学部　教授 石井 雅幸

人間関係学部　准教授 堀 洋元

人間関係学部　准教授 八城 薫

短期大学部　教授 堀口 美恵子

大妻さくらフェスティバル俳句大賞　34

理事長・学長賞受賞作品

優秀賞受賞作品

イベント団体紹介　36

千代田区立九段小学校　九段囃子の会

千代田区立九段小学校　九段 Planets

大妻嵐山中学高等学校　ダンス部

地域貢献プロジェクト一覧　28
図書館職員がお勧めする春の図書 8 選　38
大妻古本募金　40
フラワーロードの会　活動報告／花の紹介

千代田のさくらまつり「大妻さくらフェスティバル2021」

千代田区長
樋口 高顕

今年は、例年より桜の開花が早まり、新型コロナウイルス感染症の影響で沈んでいた気分も高揚してまいりました。そのような中、「大妻さくらフェスティバル 2021」が非対面方式などの工夫をされ開催されますことをお聞きし、心から嬉しく感じております。

さて、私、このたび千代田区長に就任いたしました樋口高顕と申します。皆様方には様々な面でご支援いただき、より良い千代田区を創り上げてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本フェスティバルと連携して行われております「千代田のさくらまつり」は、残念ながら感染症拡大の影響を受け、開催を見送らせていただくこととなりました。その意味も込めまして、このフェスティバルに大きな期待を寄せております。

千代田区では、区内の大学等に本区に関する様々な調査・研究をお願いする「千代田学」の事業を展開し、本年で 18 年目になります。本事業の研究報告は、区政や地域の発展に寄与するものとして活用させていただいており、大妻女子大学の研究成果はその代表例と言えます。

大妻女子大学が、区の花である「さくら」に着目し、地域の方々との連携協力による様々な企画のもと、実施していただいておりますことに、改めまして深く感謝申し上げます。

まさに、「千代田学」の研究・報告や「地域連携プロジェクト」事業報告、区内の小学生から大学生による「パンフレット表紙デザイン画」、「俳句大賞」の発表、地域活動諸団体による魅力的なパフォーマンスの動画配信などが結集し、素晴らしい「さくらフェスティバル」に創り上げられたものと確信しております。

千代田区には、13 万人を超える皆様が学業に励んでおられる中、大妻女子大学では、地域のお祭りや教育、福祉、防災などの幅広い活動に積極的にご参加いただき、多くの方々との絆を深め、地域に愛される大学として親しまれております。

結びに、1949 年の開校以来、永きにわたり、地域とともに歩まれてきた大妻女子大学が、今後も一層発展されますことを心よりご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

「千代田のさくらまつり」と「大妻さくらフェスティバル」

大妻学院　理事長
大妻女子大学 学長
伊藤 正直

千鳥ヶ淵のさくら開花にあわせた「千代田のさくらまつり」が開催される時候となりました。コロナ禍の収束がなかなか見通せないこともあって、「千代田のさくらまつり」の一環としての「大妻さくらフェスティバル」は、本年度は非対面方式で実施することといたしました。「大妻さくらフェスティバル」を楽しみにしておられた皆様にはご不便をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。

恒例の小学生以下の部、中学・高校生の部、一般の部と分かれて募集する「俳句大賞」に始まり、区内大学・専門学校の連携事業としての「千代田学」の研究・活動報告、大妻女子大学「地域連携プロジェクト」の報告などをパンフレットに掲載するとともに、これまで大妻アトリウムで開催してきた小学生から社会人までの参加による各種の発表会やイベントなどを動画配信いたします。

千代田区は、東京の中心部を占め、皇居外濠のほぼ内側をその区域としています。国会議事堂やほとんどの官庁がある政治の中枢地域であるだけでなく、大手企業の本社、経団連などの経済組織が立地するオフィス街でもあり、さらには多くの大学や文化施設が集中する文教区域でもあります。こうした優れた都市環境のなかで、本学院も、新しい都市文化の担い手として、その一端を担うべく努力する所存です。

近隣 5 大学により、2018 年度に発足した「千代田区キャンパスコンソ」では、学生間の単位互換をはじめとして、さまざまの企画を共同で行い、教育・研究の相互発展、研修なども企図してきております。千代田区内の企業や教育機関との協定も継続しております。これを機にさらに地域文化の発展に寄与できるよう微力を尽くす所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

「大妻さくらフェスティバル2021」を祝して

一般財団法人大妻コタカ記念会 会長
井上 小百合

今年も「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことをお慶び申し上げます。

毎年桜の開花を心弾む思いで待ち望み、新年度への新たな希望を抱くこの季節。今年はオンラインでの実施と伺い、この新しい試みはコロナ禍に負けず前進する姿と受け止めました。

これを機に多くの方がこのフェスティバルに関心を寄せてくださるよう願うものです。

大妻コタカ記念会は大妻女子大学、大妻高等学校、大妻多摩高等学校の卒業生および在学在校する大学生、高校生によって構成される一般財団法人です。大妻コタカの偉業を継承具現することを目的の一つに掲げ、同窓会事業はもとより、一般財団法人として広く一般の公益に資する事業を積極的に進めており、特に文化講演会や生涯学習講習会は、会員だけではなく千代田区在住の皆様を始めとして多くの方にご参加いただいております。

これからも地域の皆様に参加していただける企画を積極的に進めていきたいと存じます。

「大妻さくらフェスティバル」に寄せて

大妻さくらフェスティバル実行委員長
大妻女子大学地域連携推進センター所長
井上 美沙子

英国詩人 A.E.Housman が詩集『シュロップシャーの若者』の中で、日本人にも共感できる桜についての詩を次のように詠っている。

木のなかで一番美しい木、桜がいま
大枝に懸かる花に飾られ、
春の騎馬道の傍らに立つ
復活祭の季節にあわせ白い衣裳を身につけて。

Loveliest of trees, the cherry now
Is hung with bloom along the bough,
And stands about the woodland ride
Wearing white for Eastertide.

ところで、ぼくの七十の定命のうちの、
二十は二度と戻ってこない、
七十の春から二十を取れば、
残りはもうあと僅か五十だ。

Now, of my threescore years and ten,
Twenty will not come again,
And take from seventy springs a score,
It only leaves me fifty more.

巡ってくる五十の春は多いと言えない
盛りの花を見る機会としては、
森のあたりにでかけてこよう
雪をまとった桜を眺めに。
（石井正之助訳）

And since to look at things in bloom
Fifty springs are little room,
About the woodlands I will go
To see the cherry hung with snow.
(*A Shropshire Lad,* Ⅱ)

桜の花を雪にたとえ、純白の清楚な花をまとった復活祭をイメージした木として生と死を同時に見つめている。この二十歳の若者が、今を盛りに美しく咲く花も、いつか散ってしまうこと、自分のこれまでの二十年の歳月は二度と再び戻ることはないという人生のはかなさに想いを馳せる。人間七十年としたら残る五十年、この花を見る機会が多いとはいえない。「雪をまとった桜を眺めに」静かな諦観と憂いに誘われて、春の騎馬道の傍らに立つ木までさあ行こう。洋の東西を問わず桜は、時間の巡りと歳月の経過に対する憂慮と、命限りある宿命を持つ生のはかなさとを人々に示唆するようである。とりわけ花の美しさが衝撃となり、心情に強く訴えかけてくるように思える。

「千代田のさくらまつり」に寄せて

大妻女子大学と区内10大学は相互に連携･協力して、それぞれが有する知的資産を地域に還元することで千代田区を維持し、発展させ、次世代に引き継いでいくことを目的に、「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」を締結しています。区内10大学からお祝いの言葉を寄せていただきました。

ニュー・ノーマルとなるか?

共立女子大学／共立女子短期大学 学長
川久保 清

令和３年にも、「さくらまつり」の原稿執筆依頼を頂きました。「大妻さくらフェスティバル2021」の冊子が刊行される頃には昔のような景色をながめることが出来ているのでしょうか?

１年前、新型コロナウイルス感染症に対して４月７日から５月25日の間緊急事態宣言が発令されました。共立女子大学では予定していた学位記授与式、入学式は中止とし、新入生の入学時ガイダンスはオンラインで行いました。学生のいない学園本館前に咲く満開のしだれ桜を見ながら、来年の桜はきっと普通に戻った状態で見上げることができるだろうと漠然と考えていました。

ところが、感染症の勢いは止まらず年を明けて1月８日に緊急事態宣言が再度発令される状況となりました。新型コロナウイルスは正式の名前をつけてもらう前に感染拡大の収束の道は見えません。しかし、学内での感染拡大の状況はありません。いつまでも自粛ではなく、ニュー・ノーマルの道を模索していきたいものです。

千鳥ヶ淵の橋とサクラ

城西大学 学長
藤野 陽三

2020年４月から城西大学学長をつとめています。私の専門は土木工学で、橋などの構造物が研究対象です。橋の工学を研究対象にするなら、町の中にある橋を知ることも大切と思い、「橋の風景画教室」を1993年に学生さんとはじめました。毎年、数枚の橋の絵を描いてきています。その一つが千鳥ヶ淵の絵です。首都高速の橋が遠くに見えますが、桜はすでに散った後です。今年は、桜が満開の時に千鳥ヶ淵を描いてみようと思います。そのころには新型コロナが収まっていることを願うばかりです。

また来る春に寄せて

上智大学 学長
曄道 佳明

コロナ禍による社会の激変の中で、満開になる桜の花の温かな華やかさには、格別の意味があるように思います。毎年、桜の開花は喜びの季節、スタートの季節を実感する契機となるのですが、幾度となく経験したこの季節感が、今年はより尊いものに感じられます。日常の当たり前の風景が、変わりゆく社会の中でいかに大きな意味を持つものなのか、改めて問い直す機会となりました。今年も咲く桜の花に、感謝の気持ちすら覚える今日この頃です。大学も、この 1 年間はコロナ禍への対応に追われました。キャンパスの日常という、今まで当たり前に考えていた風景にこそ、大きな価値、意義があるものだと再認識することとなりました。

今年も桜祭りの開催のためにご準備にあたってくださったご関係の皆様に、改めて御礼をお伝えしたいと思います。また春が来た、あるいはいつかは春が来るものだ、そういう安堵感を演出してくれるこの桜祭りに心から感謝いたします。

国際色豊かな学び場へ

専修大学 学長
佐々木 重人

世界中がコロナ禍に見舞われている最中ではありますが、今年も「大妻さくらフェスティバル」が開催されることは、心も華やぎ、誠に嬉しく存じます。さまざまな工夫を凝らし、今回は非対面方式で開催されることに敬意を表するとともに、心よりお祝い申し上げます。

専修大学は昨年（2020 年）、創立 140 周年を迎えました。靖国通り沿いには 140 年記念館（神田 10 号館）が完成し、新たな知の発信拠点として早くも親しまれております。そして、神田キャンパスには 2020 年に新設された国際コミュニケーション学部、生田キャンパスから移設された商学部、既存の法学部が集結しました。この3学部のコラボレーションにより、国際色豊かな新しい学びの場を千代田に創出するとともに、本学がより深くこの地に根差し、地域社会の課題解決や発展に貢献していくという決意を新たにしております。

大妻女子大学が本企画を通じてリーダーシップを発揮されていることにエールを送るとともに、これを契機として千代田区にある各大学の魅力を共に発信していきたいと存じます。

四月になれば、見慣れたまちに桜は舞い散る

東京家政学院大学 学長
廣江 彰

四月、いつものように、桜の花が散る中で新入生は笑い合っているだろうか。桜の花びらを浴びて春に酔い、ちょうど楡野卯月[*1]のような期待と戸惑いのさなかにあるのだろうか。

三月、いつものように、満開の桜の下で卒業生たちは別れを惜しんだのだろうか。

分からない。沢木惣右衛門直保[*2]の「力」を持たない私たちに、今がどうなっているのかは分からない。確かなのは桜が咲き乱れ、また鮮やかに散っていくことだ。

学生たちの生活は桜で始まり、桜で終わる。仮名文字「あん」のように、初めと終わりに置かれた入学式と卒業式、それを同じ桜が祝ってくれている。そのあいだ、学生たちは「この社会に生きることの意味」を問いながら、学び続けていただろう。

さあ、今年は「千代田のさくら」の下で、訪れた春に酔い、生きていることを実感しよう。

＊- 1; 楡野卯月は「四月物語」（岩井俊二監督）の主人公名
＊- 2; 沢木惣右衛門直保は「もやしもん」（石川雅之）の主人公名

千代田のさくらまつりに寄せて

二松学舎大学 学長
江藤 茂博

さくらの開花の時期になると、いつも千鳥ヶ淵が全国そして海外にも紹介されることになる。この日本の教育学問の地でもある千代田が、さくらで世界と結びつくのである。近年は、外国人観光客も多く、さまざまな言葉が暗くなってからもまだ飛び交っていた。しかし昨年は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、もの静かなさくらが全国に発信されることになった。これまでも、いろいろな悲しみや喜び、そして願いのうちに、さくらは満開となり、お堀に花びらを浮かべてきたのだろう。改めて、私は静かなさくらの満開の下でそう考えないわけにはいかなかった。私たち教育機関は、学生たちをさくらと同じく、そしてさくらのように、大きく開花させなければならない。そして、彼らもまた世界に向けて自らを発信させていくことになるだろう。知は、ウイルスに負けない。また、さくらが魅せる美は、私たちをいつも大きく励ましてくれている。

感染対策のプロフェッショナル

日本歯科大学 生命歯学部長
沼部 幸博

この度は新型コロナウイルス禍にも負けず、開催方式工夫のもと「千代田のさくらまつり」の一環である「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

昨年 1 月から続く新型コロナウイルスの脅威は衰えることもなく、そんな中私たち自身でできる効果的対抗手段は、様々な「感染症対策の励行」となっています。

多くの職種でクラスター（感染者の小規模集団）が発生する中、いまだ歯科医療の現場ではその事例はなく、歯科医院などは安全な施設の一つと認知されています。この理由は、医科と同じく歯科でも、長い間、感染対策の術を培ってきたからです。

すなわち、歯科医師は感染予防、感染対策、さらに口腔領域の感染症治療のプロフェッショナルなのです。そして現在も私たちは、次世代の歯科医療を担う本学の学生達に、今後も繰り返し訪れる可能性のある感染症のパンデミックに負けない「知識と技能」を教授し続けています。

千代田のさくらまつりに寄せて

日本大学 学長
加藤 直人

今年もまた、春爛漫を告げる「千代田のさくらまつり」の季節がやってきました。その「まつり」の一環として、大妻女子大学が毎年、「大妻さくらフェスティバル」を開催されていることに敬意を表します。予想もしなかった新型コロナウイルス感染拡大という事態に、今年は非対面形式での開催となるようですが、地域活性化、地域文化の発信を常に念頭に置かれていることに感謝申し上げます。

都内でも日本大学法人本部のある九段坂周辺程、桜の多い地域はあまりありません。数えきれないほどの花見客が訪れる千鳥ヶ淵はじめ、靖國神社、皇居周辺、日本武道館辺り。都内でも指折りの桜の名所です。日本大学では通常は武道館で卒業式、入学式を執り行っていますが、周辺の満開の桜に、社会人となる卒業生はエールを送られ、新入生は希望を与えられています。桜の力の有難さを思います。

「千代田のさくらまつり」と「大妻さくらフェスティバル」益々のご発展を祈念申し上げます。

江戸東京の桜に思いをはせる

法政大学 総長
田中 優子

江戸時代はヤマザクラの並木が、隅田川べりや上野に作られました。江戸には、様々な種類の桜が、時期をずらしながら咲いていたのです。やがて染井で、異種の桜の接ぎ木によってソメイヨシノが新しく開発されました。そして明治以降、ソメイヨシノ一辺倒になります。すべてDNAが同じなので開花予想が可能となりましたが、いっせいに咲いていっせいに散ってしまいます。千代田区内の桜は、明治時代にイギリス大使アーネスト・サトウが東京府に寄付したことに始まるそうです。今や近代の桜が東京を飾っています。法政大学の目の前にある外濠も桜の名所です。法政大学江戸東京研究センターは、外濠に江戸時代と同じように外の川の水を引き込み、「流れ」を取り戻す働きかけをしています。外濠に清流が戻る日、もっと多様な種類の桜が、長い期間にわたって咲き誇るのを期待しています。

地域と大学との
新たな連携モデルの構築を目指して

明治大学 学長
大六野 耕作

桜の名所・千鳥ヶ淵の桜が本格的な春の訪れを実感させてくれる頃、「千代田のさくらまつり」の一環として貴学の「大妻さくらフェスティバル」が開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

千代田区と区内の大学が行う調査・研究事業である「千代田学」を通じた各大学の取組みは、大学の魅力・特色をより多くの区民の皆様に知ってもらうことができる貴重な機会であるとともに、地域と学生との交流の場の創出にもつながっています。一方、千代田区と大学の連携の深化は、区内の大学同士の連携を促進する一翼も担っております。その中で、「大妻さくらフェスティバル」は、大学間連携・学生交流のひとつの核となるイベントでもあります。貴学の積極的な活動に対し、参加大学の学長として心から感謝申し上げるとともに、本学といたしましても、今後もさらなる交流を図ってまいりたいと考えております。

結びにあたり、千代田区の一層の活性化と各大学の益々の発展を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

千代田学事業報告

千代田学とは、区内の大学が、千代田区に関する様々な事象を一つの学問として学ぶもので、平成 16 年度から始まりました。千代田区は、審査のうえ、その調査・研究に対し経費の一部を助成しています。

手洗い効果の可視化による「食の安全」の推進

共立女子大学 家政学部 教授　伊藤 裕才
大妻女子大学 家政学部 教授　堀江 正一
共立女子短期大学 生活科学科 准教授　中西 朋子

本プロジェクトの目的

食の安全における最大の脅威は「食中毒」である。食中毒の原因となる病原微生物（例えば黄色ブドウ球菌）はごく身近に存在する。そのため、日常の生活においても、これら病原微生物によって食中毒が発生する可能性は十分にある。病原微生物から身を守る最も簡単な手段は「手洗い」である。昨年から続くコロナ禍においても、手洗いがウィルスの防御に有効な手段であることが世界的に再確認されている。しかしながら、病原微生物は目に見えないために手洗いの効果はなかなか実感できず、励行されない場合が多々ある。

そこで今回、手洗い効果をわかりやすく可視化することで、人々に手洗いの重要性を再確認してもらうことを目的に本プロジェクトを発案した。千代田区は、皇居、霞が関、さらに秋葉原を含む神田地区を有し、まさに日本の中心といえる場所であるが、その千代田区に 100 年以上キャンパスを構える共立女子大学・同短期大学、および大妻女子大学の食品衛生系の３研究室から「手洗いの重要性」を発信しようと試みた次第である。

実施内容

汚染された手指が手洗いによってどの程度改善するかを、化学的かつ生物学的に可視化することを目的としている。方法自体は新規的なものではなく、市販のキットを用いた一般的な衛生実験の

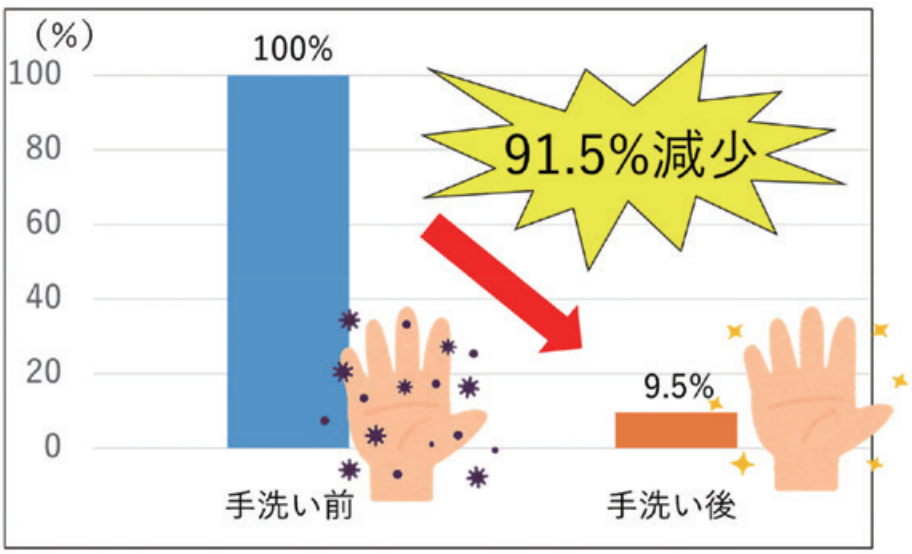


図１：手洗い前後における手指の ATP 量の変化（40 名の平均）

範疇である。学生実験を利用してデータを集めているが、参加してもらった学生たちにも手洗いの効果を理解してもらい、手洗いの意識を高めてもらうことも目的としている。

手指に存在する細菌量は、手指表面の ATP 量で表現できる。そこで手指の拭いによって採取した ATP を用いてホタル由来の発光物質を発光させ、その発光量を測定して数値化した。学生 40 名に普通石鹸さらに逆性石鹸を用いて手洗いを行ってもらった結果、手指の ATP 量は手洗い前に比べて約 90%減少することが判明した（図 1）。

さらに手洗い方法を、①水洗いのみ、②石鹸＋水洗い、③石鹸＋逆性石鹸＋水洗い、④消毒用エタノール噴霧、⑤エタノールジェルに分類し、学生にそれぞれの手洗い方法を試してもらって ATP 量の変化を確認した。その結果、水洗いのみでも ATP 量は 80%以上減少し、石鹸や逆性石鹸による手洗いによって ATP 量はさらに減少した。これにより、水洗いするだけでも手指の衛生は保たれることが確かめられた。一方で、消毒用エタノール液やエタノールジェルによる洗浄では ATP の減少が確認できなかった。この原因はエタノール噴霧やジェルの利用の際は水洗いの工程がないため、実際は殺菌効果があったにも関わらず ATP が手指に残存し続けたためと推測した。そこで、エタノールの殺菌効果を視覚化すべく、指先の細菌の培養を試みることにした。

生のひき肉に触れた指先をスタンプ培地（一般細菌用、大腸菌群用、黄色ブドウ球菌用）に接触させた後に、石鹸や消毒用エタノールによって手指を洗浄し、手洗い前と後での細菌量の違いを可視化した。その結果、手洗い前では多くの菌が培地上で確認されたが、石鹸や消毒用エタノールで洗浄した指先からは細菌は検出されなかった（図 2）。よって、消毒用エタノールによる洗浄は手指の衛生を保つために非常に有効な手段であることも再確認された。

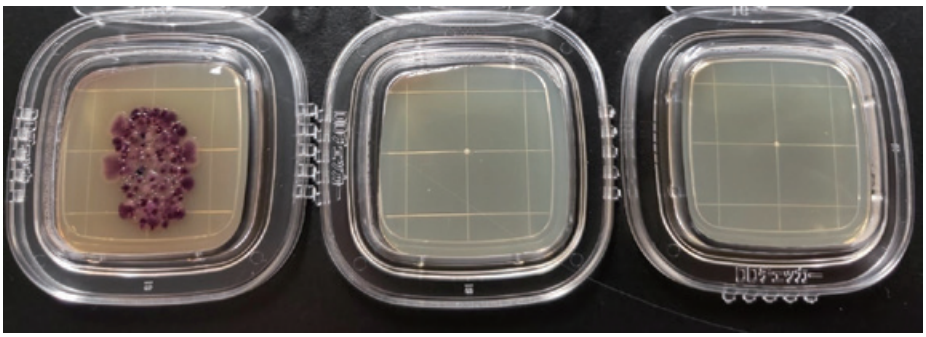


図 2 ：指先の細菌量
（左：生肉に触れた直後、中：石鹸での手洗い後、右：消毒用エタノール噴霧後）
培地は大腸菌群用のものである。

千代田区民・在職者の心の健康増進・精神疾患の発症予防を意図したワークブックの開発と普及

上智大学 文学部 嘱託講師　島崎 崇史

1. 本事業の目的

ストレスや気分・感情障害をはじめとする精神疾患罹患者の増加、学校におけるいじめや不登校、若年層を中心とした自殺、労働者の過労死、高齢者の孤立をはじめ、心の健康については、深刻な課題が山積している。

千代田区では、保健所が中心となり、精神科専門医による心の相談室、精神障害者のデイケア、および心の病を抱える区民への支援、といった二次予防（早期発見・早期治療）、あるいは三次予防（復職・社会復帰支援）の取り組みに力が注がれている。加えて、心の健康状態に問題が起きる前に、日常生活の中でストレス反応を低減し、肯定的な感情を喚起する、いわゆる一次予防（健康増進・発症予防）を意図した施策の強化は、千代田区における心の健康に関連する施策の充実に貢献すると考えられた。

そこで、今回の事業では、千代田区民・在職者の心の健康増進・精神疾患の発症予防に貢献するワークブックの作成をおこなった。

2. ワークブックでの推奨内容：メンタルヘルスプロモーション行動

ワークブックでは、表1に示すような日常生活の中で誰もが実践可能なメンタルヘルスプロモーション行動（ストレス反応を低減し、心の健康増進、メンタルヘルス不調の予防に貢献する行動）の実施を促すことを意図して情報提供をおこなった。

表1　メンタルヘルスプロモーション行動

構成概念	質問項目
1. 身体活動	ウォーキングや体操といった身体を動かす活動を行っている。
2. 平日文化的活動	日頃から読書や音楽鑑賞などを行っている。
3. 休日文化的活動	休日には、趣味の行事、映画鑑賞、美術展めぐりなどを行っている。
4. 対人コミュニケーション	日頃から友人と関わりを持っている。
5. 積極的リラクセーション	お風呂に長く入る、適度な飲酒をするなど、自分がリラックスできる活動を積極的に行っている。
6. ボランティア活動	人の役に立つ活動や、人を援助する活動を行っている。
7. 新規活動への興味と参加	今までやったことのないような新しい活動や学習に挑戦している。
8. 集団への所属	趣味の会、旅行の会などの集団活動の会に所属して活動している。

3. 本学職員を対象とした事前調査（フォーマティブリサーチ）

ワークブックと対象者との親和性を高めるため、本学職員15名の協力を得て質的調査をおこない、行動の実施をさまたげる要因（バリア要因）を明らかにした。表2に示す調査の結果に基づいて、ワークブックを作成した。

4. ワークブックの作成

ワークブックは、図1に示すように（1）ストレスと対処に関する基礎知識、（2）行動実施による恩恵の紹介、および（3）行動計画シート、といった内容により構成した。作成したワークブックは、千代田区保健所に加え、本学内のカウンセリングセンターをはじめ各部署の協力を得て設置を計画している。さらに、現在大学に来ることの叶わない学生たちに対しても、オンライン上での普及を

表2　フォーマティブリサーチで抽出されたバリア要因と対処

バリア要因の分類		対処のための技法	ワークブックへの反映
時間・タイムマネジメント	時間のなさ スケジュール調整 日常の規則性	アクションプラン （効力予期）	行動計画シート （If-Thenルール）
知識・アイディアの欠如	方法を知らない 機会のなさ	知識提供	ストレス概論 方法の提示
心理的要因	動機づけのなさ 興味のなさ 優先順位の低さ 疲労	動機づけ支援 （結果予期）	恩恵に関する情報提供
社会的孤立	共同する仲間の欠如 人間関係の煩わしさ	ソーシャルサポート	目標宣言 一人でできる活動の推奨
外的要因	COVID-19 金銭的な問題 引っ越し（環境変化）	バリア要因の軽減	行動計画シート （対処計画）

図1　作成した心の健康づくりワークブック

【健康教育漫画】

【表紙】　【背表紙】

【行動変容プランシート】

【メンタルヘルスプロモーション行動】

【クラスター分析に基づく行動類型の自己分析】

【ストレス概論】

進める。COVID-19 の感染流行に伴う感染症への脅威、外出自粛、人と人との繋がりの稀薄化により、心の健康増進は、今後一層非常に重要な課題となるであろう。このワークブックが本学にとどまらず、千代田区内に広く普及できるよう取り組みを継続していきたい。

コミュニティサイクルの効率的な活用方法の検討

専修大学 商学部 教授　岩尾 詠一郎

1．はじめに

現在、千代田区を含め、様々な地域でコミュニティサイクルが導入されている。しかしながら、コミュニティサイクルを導入後の問題点のひとつとして、「利用者の駐輪や走行マナー」の問題などがあげられている[1)]。

「利用者の駐輪や走行マナー」は、自転車利用者に安全かつ快適に自転車を利用してもらうためにも、自転車の駐輪や走行に関するルールへの理解が必要不可欠である。

そこで、本事業では、自転車利用者に対し、走行と駐輪に関するルールへの理解度向上のための方策を明らかにしていく。

2．本研究の方法

本事業の目的を達成するために、①文献調査から、自転車の走行と駐輪に関するルールを示す。次に、②自転車道および自転車ナビラインの表示のある車道の走行実態と駐輪状況の実態調査をおこない、自転車の走行と駐輪の実態を明らかにする。そして、③文献調査から、他自治体で実施している、自転車利用者に対する走行および駐輪に関するルールの徹底に対する方策を示す。さらに、④自転車利用者に、走行および駐輪に関するルールの理解についてアンケート調査をおこない、ルールの理解度を示す。最後に、⑤千代田区で実施可能と考えられる方策を示す。

本稿では、このうち、①自転車の走行に関するルールと、②自転車ナビラインの表示のある車道の走行実態調査の結果を示す。

3．自転車の走行に関するルールの内容の分類

自転車の走行に関するルールの内容の分類では、道路交通法に記されている自転車の走行に関するルールを抽出し、そのルールの内容を整理した。なお、道路交通法とは、『道路における危険を

表 1 道路交通法における自転車に関するルールの概要

①自転車の走行場所に関するルール	④自転車走行時の義務事項
自転車の通行区分（第 17 条，第 17 条の 2，第 18 条，第 20 条，第 63 条 3）	信号機の信号等に従う義務（第 7 条）
普通自転車の歩道通行（第 63 条の 4）	車両等の灯火の義務（第 52 条，第 63 条の 9）
自転車の通行方法の指示（第 63 条の 8）	警音器の使用（第 54 条）
徐行すべき場所（第 42 条）	歩行者用道路を通行する車両の義務（第 9 条）
指定場所における一時停止（第 43 条）	安全運転の義務（第 70 条，第 71 条）
通行の禁止等（第 8 条第 1 項）	乗車又は積載の方法と制限（第 55 条，第 57 条第 2 項）
②自転車の走行方法と走行時の留意事項	⑤自転車走行時の禁止事項
自転車の横断の方法（第 63 条の 6）	軽車両の並進の禁止（第 19 条，第 63 条の 5）
道路外に出る場合の方法（第 25 条）	進路の変更の禁止（第 26 条の 2）
左折又は右折時の留意事項（第 34 条）	横断等の禁止（第 25 条の 2，第 63 条の 6）
踏切の通過時の留意事項（第 33 条）	酒酔い運転の禁止（第 65 条）
③他の車両と自転車との関係	⑥自転車の整備や検査に関するルール
交差点における他の車両等との関係等（第 36 条，第 37 条，第 63 条の 7）	制動装置（ブレーキ）不良自転車運転の禁止（第 63 条の 9）
環状交差点における他の車両等との関係等（第 37 条の 2）	自転車の検査等（第 63 条の 10）

防止し、その他交通の安全と円滑を図り、及び道路の交通に起因する障害の防止に資することを目的』として定められた法律である。なお、道路交通法では、自転車は、軽車両のひとつとして位置づけられている。自転車道は、『自転車の通行の用に供するため縁石線又は柵その他これに類する工作物によって区画された車道の部分』と定義されている。また、自転車ナビラインは、自転車が走行する場所と方向を明示したものであるが法令の定めはない。

道路交通法から、自転車の走行に関するルールを抽出した結果、道路交通法には、24 の自転車の走行に関する条文があった。それぞれの条文の内容から、①自転車の走行場所に関するルール、②自転車の走行方法や走行時の留意事項、③他車両と自転車との関係、④自転車走行時の義務事項、⑤自転車走行の禁止事項、⑥自転車の整備や検査に関するルールを 6 つに分類した（表 1）。

4．自転車の走行実態調査

自転車の走行実態調査は、先に示した自転車の走行に関するルールのうち、「①自転車の走行場所に関するルール」の遵守の実態を自転車の走行実態から明らかにすることを目的に実施した。

調査は、2020 年 10 月 13 日 9:30 から 17:30 の間に、九段下駅近隣の靖国通りの車道と歩道をビデオカメラで撮影し、車道と歩道を走行している自転車の台数を時間帯別にカウントした。なお、本稿では、2020 年 10 月 13 日 9:30 から 12:15 までの集計結果を示す。

その結果、調査時間帯では、9:30 ～ 10:29 の走行台数が最も多く、次に多いのは 11:29 ～ 12:14 であった。自転車の走行場所と走行方向は、約 49% の自転車が車道を、約 51% の自転車が歩道を走行していた。なお、車道を逆走していた自転車は、なかった（図 1、図 2）。

このことから、車道を走行していた自転車の全てが走行方向のルールを守っていることが明らかとなった。

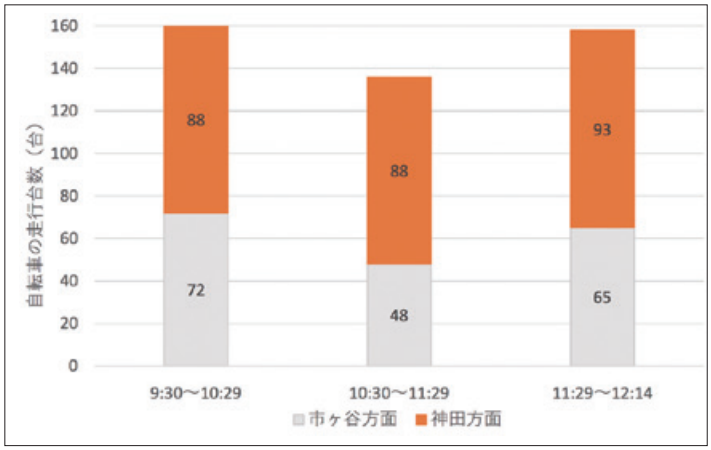


図 1 時間帯別・方面別の自転車の走行台数

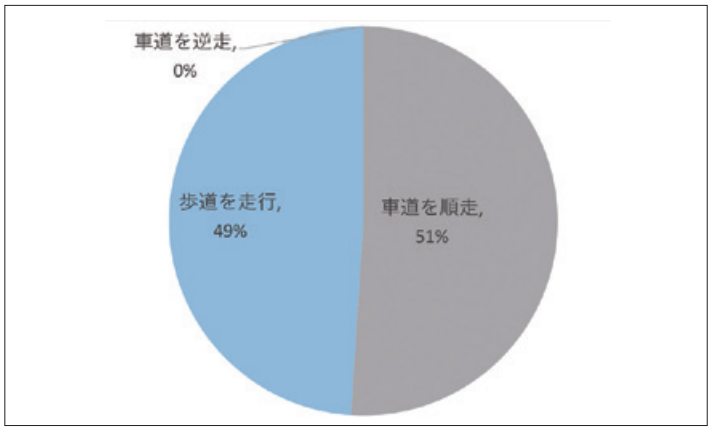


図 2 場所別・方向別の自転車の走行割合

参考文献
1）国土交通省都市局「コミュニティサイクルの取組状況について」
https://www.mlit.go.jp/common/000990570.pdf、平成 25 年

千代田区における和食文化体験・交流資源の開発と活用に関する研究

東京家政学院大学 人間栄養学部 教授　酒井 治子

1. 研究の背景と目的

千代田区は、江戸時代など伝統・歴史ある食文化が醸成された地域である。このことから、令和元年度『千代田区における和食文化体験・交流資源の教材化に関する研究－「千代田区和食文化体験・交流プラットホームマップ」の開発・発信－』において、平成 25 年にユネスコ無形文化財に登録された「和食文化」に焦点をあて、千代田区における和食文化体験を提供する店舗を、本学学生が管理栄養士の卵として取材し、その様子は、「たべチヨダ（http://www.chiyoda-event.com/tabechiyoda）」を作成して、区民を含めて広く、情報を発信した。

本研究の目的は、昨年度に引き続き、研究 1 として、和食の料理から、和食を演出する食器・花・和紙など食卓全体、いわば、和食文化に視野を広げ、管理栄養士として必要な素養である地域の住民について知り、社会資源を探索して発信する力を養うため、他学年合同によるアクションリサーチとして実施する。研究 2 として、子どもが「和食を作る・食べる・楽しむ」という行為を通して、多様な感受性を表現し、それを他者と共有することで、感性を養い、創造力と表現力を培う時間や空間を作ることを目指してている。その第一段階として、小学生の児童が「料理をする音を身近なものや様々な楽器を用いて表現する」ことを教育目標とした指導案（教材）を提案する。

2. 活動内容

研究 1 ―（1）取材店舗、参加者

今年度は、食事をつくるための食材ではなく、「食事をしつらえる和の文化」をテーマとして関連の店舗に協力を得て実施した。東京家政学院大学人間栄養学部人間栄養学科 1 年生 27 名、3 年生 3 名が取材を行った。店舗、取材・体験内容は表 1 の通りである。

表 1　各体験コースと取材店舗一覧

店舗名	取材テーマ
平安堂	墨と筆でお品書きが食事を彩る
和のうつわ青珠	日本の四季に合う器
司園	お茶をたのしむ～若者がお茶と和菓子を味わう～
和紙山形屋紙店	日常の食事と和紙の関係を知ろう
（株）花省	四季の行事を彩る花と料理

研究１―（2）店舗への取材状況

学生が店舗の方にインタビューをすることで、千代田区の人と人とのつながりを感じ、千代田区の中で、千代田区の人々から、千代田区の歴史や魅力を発見することができた。

バランスのよい献立を作成するだけでなく、「食事をつくる」ということについて、考えるきっかけとなっていた。管理栄養士は対象者の気持ちに寄り添うことが求められるため、学生にとって大変よい経験となり、またそれらの総合的な学びを記事にして分かりやすく伝えることの重要性を学ぶことができた。

器の説明を聞く様子（和のうつわ青珠）

茶葉を見る様子（司園）

インタビューの様子（山形屋紙店）

取材をする様子（(株）花省）

購入した筆と墨で書く様子（平安堂）

研究２　小学生の児童が「料理をする音を表現する」ことを目標とした教育活動の提案

学生は、録音された「炒める音」「煮込む音」等を民族楽器や身の回りのもので再表現したり、思い浮かべた調理する音を再現し、その料理名を当てるゲームをしたりして、「美味しい音」を表現する体験を楽しんだ。本活動の内容及び、小学校で総合的な活動としての提案は、「たべチヨダ」から発信する。

調理する音を聞き、どの楽器をどのように鳴らそうかと考える様子

実際に表現する様子

「千代田区の郷土資料を用いたWikipedia記事作成ワークショップの展開」

二松学舎大学 文学部 専任講師　谷島 貫太

1．プロジェクト概要

ウィキペディアの執筆を通して地域のことを知り、また地域の情報を広く発信していく「ウィキペディアタウン」というワークショップがあります。本プロジェクトは、大学のゼミの活動としてこのワークショップを企画、運営することで、地元の人たち、外の地域の人たち、学生とが交流を深めながら地域の歴史や文化財について知り、また地域について発信していく機会を生み出していきます。

2．ウィキペディアタウンについて

ウィキペディアタウンは、日本では２０１２年頃から実施され始め、いまでは日本各地で活発に実施されています。多くの場合、ワークショップは街歩きセットで設計されます。午前中に取材を兼ねた街歩きを行い、午後にはチームに分かれ郷土資料／地域資料を調査しながら地域の史跡、文化財などについての記事を執筆していきます。その際、街歩きしながら撮影した写真もウィキペディアの姉妹サイトであるウィキメディアコモンズにアップロードし、記事に組み込みます。作業の成果はウィキペディアの記事として公開され、即座に世界中に発信されることになります。

3．プロジェクトのねらい

本プロジェクトには大きく以下の狙いがあります。

・地域の歴史についてより深く知り、愛着を深める機会をつくる
・地域の情報をウィキペディアの記事として発信していく
・学生が地域について知り、また地元の人たちと交流する機会をつくる
・ワークショップの企画、広報、運営の全体を学生が担当することで、プロジェクトマネージメントについての総合的なスキルを身につける

4．実施内容

本稿を執筆している２０２１年１月現在ですでに４回のワークショップを実施しています。

①２０１８年６月１日（金）：学内の学生向けの予備ワークショップ

ワークショップ実施のノウハウを蓄積するため、二松学舎大学文学部都市文化デザイン学科の１年生を対象とし、予備ワークショップを実施。以下の記事が作成された。

「鍋割坂」「梅林坂」「神田上水掛樋跡」「筋違橋門」「冬青木坂」「和田倉橋」「滝沢馬琴宅跡の井戸」

②２０１８年１１月２３日（金）：一般向けワークショップ「ウィキペディアタウン in 秋葉原 Vol.3」

学生が企画、広報、当日運営を担当し、秋葉原にあるサテライトキャンパス「AKIBA Lab.」を会場として一般向けのウィキペディアタウンを開催した。当日は計７名が参加した。以下の記事が作成された。

「川上座」

③２０１９年２月１５日（金）：一般向けワークショップ「ウィキペディアタウン in 秋葉原 Vol.4」

たばこ煙が歯周組織に及ぼす影響の研究

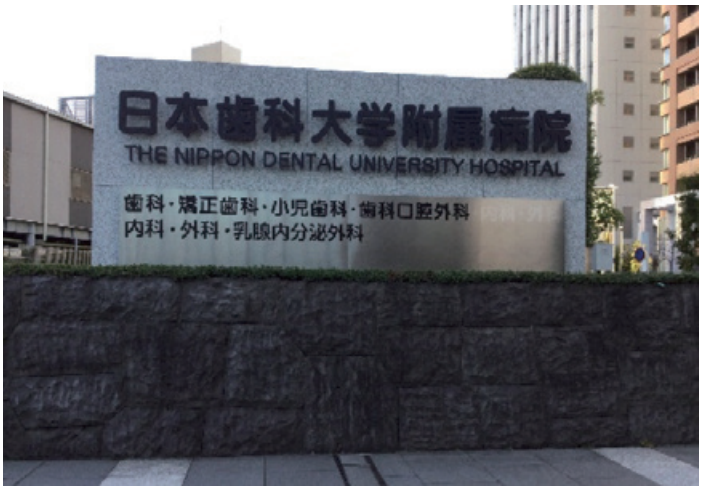
日本歯科大学附属病院 講師・総合診療科1診療医長　中西 生美

1．研究の背景と目的

千代田区は平成 14 年より「安全で快適な千代田区の生活環境の整備に関する条例」を定め、全国で初めて路上喫煙に罰則を設け、区内全域が路上禁煙地域となっている。それ以来、千代田区同様路上禁煙を条例で設ける地域が増加し、全国に広まっている。

日本歯科大学は明治 40 年に創立して以来、110 年以上に渡って歯学教育・歯学研究・歯科診療に携わってきた。本学は、関連施設敷地内での全面禁煙、教職員・学生への禁煙教育など禁煙活動に取り組んでいる。また、附属病院においても、禁煙外来の設置、全身管理を視野にした歯科治療の実施など患者への禁煙活動に取り組んでいる。さらに、科学的・医学的根拠に基づいた禁煙活動を実施するために、たばこの為害性についての研究をおこなっている。

本研究では、たばこ煙が歯肉など口の中の組織に及ぼす影響を検証し、口の中へのタバコの為害作用、特に歯周病との関連について解明することを目的としている。そして、この研究データを用い禁煙活動を推進することで、禁煙啓発活動の第一線を担ってきた千代田区における健康増進活動の一端を担うことを目的としている。



日本歯科大学附属病院は JR 飯田橋駅のすぐそばです。

2．喫煙による健康への影響

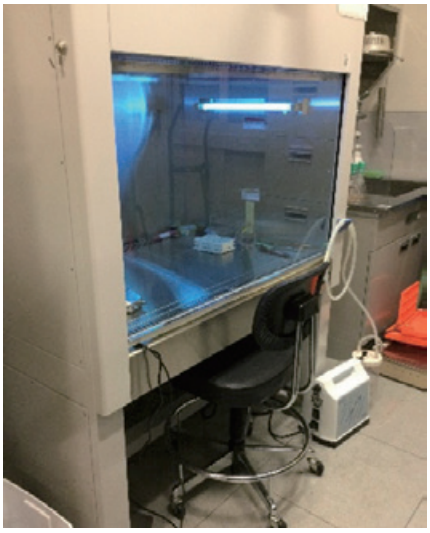
喫煙はがん、循環器疾患、呼吸器疾患など全身への影響は広く知られている。また、口の中への影響として、喫煙は口腔がんだけでなく歯周病の増悪因子となっている。歯周病は、成人の８割が罹患しているともいわれ、歯周病原菌の感染によって引き起こされる炎症性疾患である（歯肉の腫れ・出血、歯根周囲の骨の破壊など）。たばこ煙に含まれる化学物質は口の中の粘膜や歯肉の血管を収縮させ血行不良を引き起こす。それにより、喫煙者は①歯周病にかかりやすく悪化しやすい．②患者自身が歯周病であることに気づきにくい．③喫煙者への歯周病の治療効果は低く治療後の治りが悪い．ということがわかっている。

3．日本歯科大学での研究

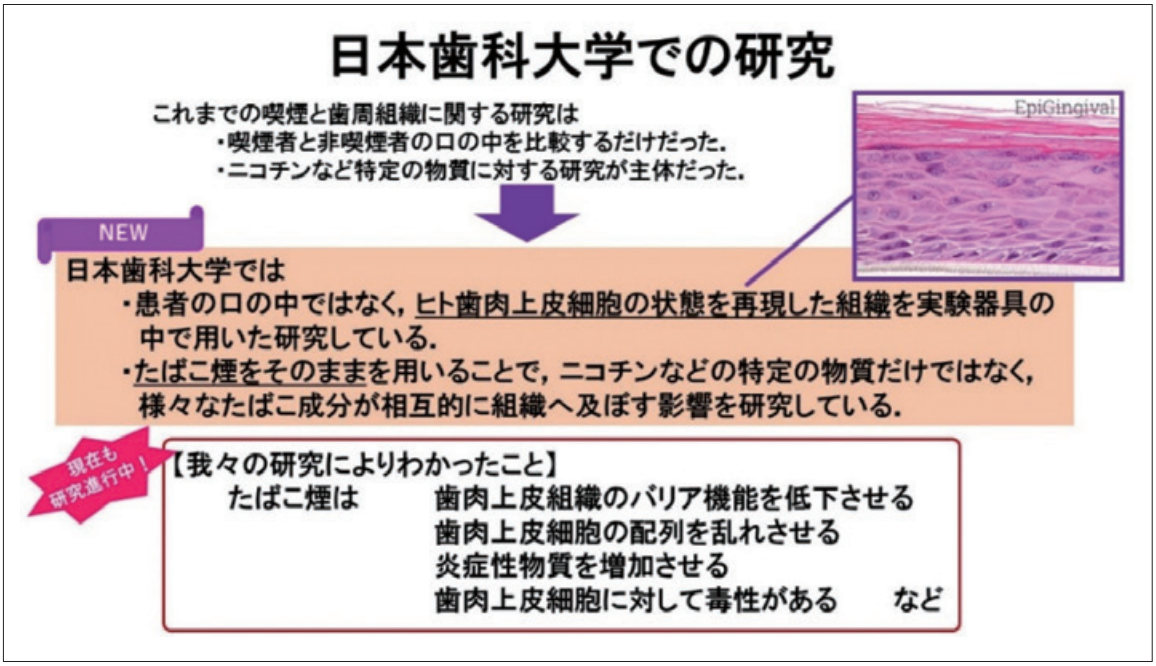
これまでの喫煙と歯周組織に関する研究は、喫煙者と非喫煙者の口の中を比較するだけの統計的な研究や、ニコチンなど特定の物質のみに対する研究が主体だった。しかしながら、たばこ煙には約 8,000 種類もの化学物質が含まれており、これらすべての化学物質が総合して歯周組織に及ぼす影響については解明されていない。

そこで、日本歯科大学では、たばこ煙（紙たばこ、加熱式たばこ）に含まれるすべての物質を三次元口腔組織（口腔粘膜、歯肉）や歯周病原菌に暴露させる研究をおこなっている。つまり、実際の喫煙口腔内環境を実験機器内で再現し、たばこ煙の成分が相互的に歯周組織に及ぼす影響を検討している。

さらに、本研究の科学的・医学的根拠のあるタバコの為害性研究結果を用いて、禁煙啓発活動を実施する。



細胞や細菌を扱う場合、空気中の埃や微生物が混入しないようクリーンベンチという機械の中で実験作業をおこないます。



内濠地域における アドホックな賑わいの可視化

法政大学 エコ地域デザイン研究センター センター長　岩佐 明彦

はじめに

ここ数年、千代田区地域の地域史資料の収集とそのアーカイブス化を進めてきた。その中で収集した古写真、絵画、絵はがき等の中には、人の賑わいを捉えたものも多く含まれ、この地域の状況を捉える上では賑わいの把握は欠かせないものとなっている。一方、イベントや出来事によって生じる賑わいは暫定的であり、これまで各種統計ではうまく捉えることが出来なかった現象である。そこで今年度は「アドホックな賑わい」（暫定的で単一目的指向型の人の賑わい。例えば皇居ランニング、イベントに関連した動員など）に着目し、昼間流入人口が大きく、特にその発現が顕著であると考えられる内濠地域を対象にアドホックな賑わいの可視化と背景要因を明らかにすることを目的に研究を予定していた。

しかし、2020 年初頭からの新型コロナ肺炎の全世界的な流行により、イベントは軒並み中止、人々の集合・交流行動は著しく制限されており、賑わいはむしろ忌避される状況となってしまった。そのため「賑わい」に着目しながらも、ポストコロナ、ウイズコロナを見据えた公共空間のあり方を視野に入れながら研究をすすめることとなった。

研究の目的

本研究は暫定的、単目的志向の人の集まりの様態を「アドホックな賑わい」と定義し、各種 IT デバイスの通信量から人の動態を把握する「Wi-Fi パケットセンサ」を用いた分析を行うことで、各種統計データでは捉えることができなかった「アドホックな賑わい」の可視化を試み、内濠地域の特性を活かした都市計画・都市政策の策定に資する資料の提供を行うことを目的とする。

Wi-Fi パケットセンサによる動態の把握

アドホックな賑わいは暫定的であり、その様態をマクロ的に把握することは従来的な観察調査では難しかったが、今回の調査でそれを可能にしたのが Wi-Fi パケットセンサを用いた仕組みである（図 1）。携帯型の通信ディバイス（スマートフォン端末など）が周辺の通信可能な基地局を探すために定期的に通信信号を発信している仕組みを利用するもので、Wi-Fi パケットセンサを用いてその通信信号からデバイスの存在を感知し、固有番号（MAC アドレス）を特定する。今日ではほぼすべての人がスマートフォンを所持していることから、Wi-Fi パケットセンサで定点の通過人数を測定できるほか、複数の Wi-Fi パケットセンサを配置し、通信ディバイスの固有番号を用いることで二点間もしくは面的な移動の様態を把握することができる。

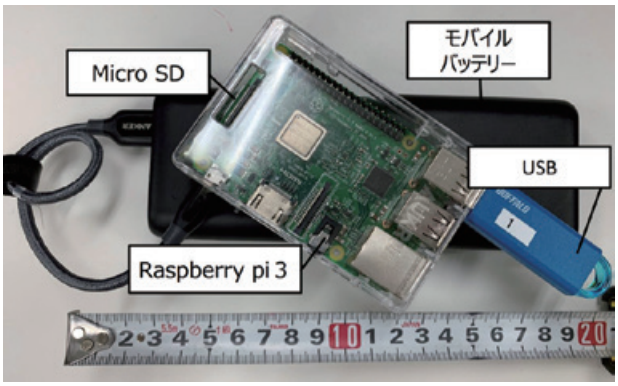


図 1　Wi-Fi パケットセンサ

日比谷公園における動態調査

本研究で対象地とした日比谷公園は内濠地域に位置し、日比谷公園は園内で行われるイベントの参加者や日比谷公会堂や音楽堂、図書館などの公園内施設の利用者だけではなく、日常的な通過動線としても活用されている。

調査では固定式の Wi-Fi パケットセンサを入口５箇所に１０セット、公園内の９箇所に１８セットの可搬式の Wi-Fi パケットセンサを配置し、２０２０年１１月２６日（木）の７時３０分から１９時までの公園全体での面的な利用様態の把握を行った。また、入口５箇所では歩行者の入退園を目測でカウントし、流動人数の補正に用いた。（図２）

Wi-Fi パケットセンサを用いた移動の様態では、単純な移動だけでなくその移動に生じた時間から歩行、滞留、滞在など、公園内での様態を推定できることがわかった。また、これらの動きをマッピングした動画を作成し、公園内での賑わいの可視化を行った（図３）。

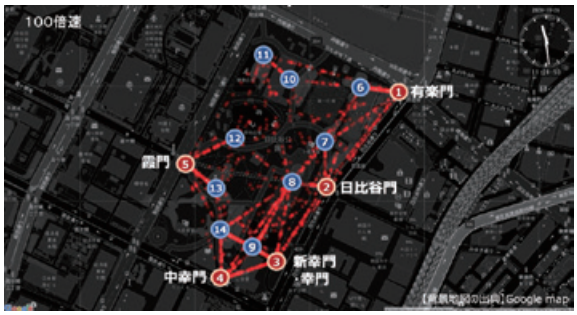


図２　調査計画

図３ 賑わいの可視化

ウィズコロナ時代の滞留様態

今回採用した Wi-Fi パケットセンサを用いることで、都市の外部空間での滞留の様態を細かく捉えることができることがわかった。ウィズコロナの時代では密を避けた交流が必要とされており、外部空間の重要性が再認識されている。特にオフィスビルが建ち並びその集積によって優位性を保ってきた都心部では「集まりながら密を避ける」ことが今後必要とされており、そこでの外部空間の役割は大きい。今回は日比谷公園に限定したが、今後は建物周辺の街路空間などにも対象を広げ、より広範な事例を収集することで、「安全に賑わう」ための滞留様態を明らかにしていくことと、それを支える外部空間デザインについて考察を進めていきたい。

おわりに

新型コロナウイルス流行のため、当初想定していた賑わいの計測やその見える化を行うことは出来なかったが、研究方針を変更することで、ウィズコロナ時代の賑わいを補足する基礎的な知見を得ることが出来た。内濠地域はオフィスや商業施設など中間流動人口が多い一方で、日比谷公園など外部空間も多くあり、これらの外部空間をいかに有効に活用していくかが今後の課題となると考えられる。

コーヒーを軸とした神保町における イノベーティブな街づくりと SDGsへの取り組みの両立

明治大学 情報コミュニケーション学部 准教授　島田 剛

1. プロジェクトの背景と目的

（背景）神保町はとても魅力に溢れた街である。古くからある純喫茶と古本屋が多く、これまでこの２つが相まって他にはない特徴的な文化的な街並みを形成してきた。しかし、現在、サードウェーブ・コーヒーの興隆の中で、若者の間ではコーヒーと聞いて神保町がイメージされることは少なくなってきている。また、古本屋もアマゾンなどオンラインで古本が購入できるようになってきたことから新刊書店も古書屋も経営が厳しい時代になってきている。

（目的）こうした中、本プロジェクトは長期的に神保町をより魅力的な街にする提案と活動を行うことを目的としている。

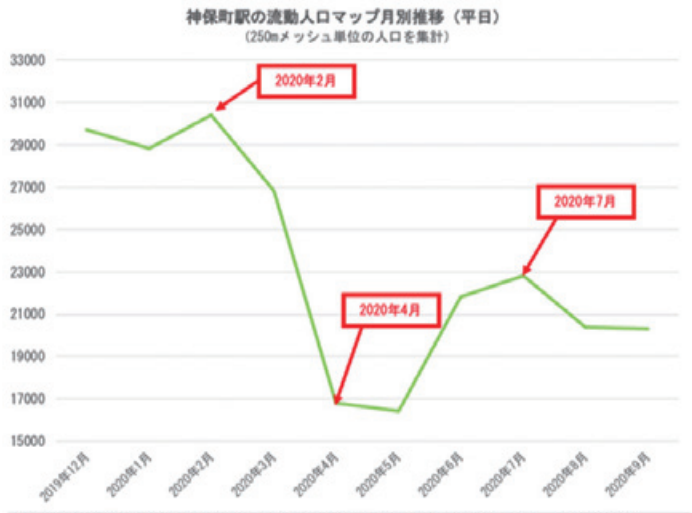
2. プロジェクトの計画

新型コロナにより、多くの活動が実施できなくなってしまったが、当初、このプロジェクトでは①古書街と神保町地域のコーヒー店の現状調査、②イベント及びセミナーの実施、③長期的な街づくりの提案、をする予定にしていた。しかし、予定していたイベントなどが次々と中止となり、また、政府の緊急事態宣言などを受け、特に学生の現地調査がなかなか実施できない状況となってしまった。そのため、オンラインによるヒアリングを中心にしつつ、状況が許す場合には対面によるインタビューを実施するという組み合わせにより調査と活動を実施してきた。

3. 分かってきたこと

①**新型コロナ 影響**：RESAS（地域経済分析システム）で提供されている NTT ドコモ携帯電話位置情報による混雑統計データより神保町駅における流動人口の推移を分析した（図）。その結果、神保町でも 4-5 月には通常の半分の人出となっていた。今後、経済への影響については他のデータも含め継続的に分析する予定であるが、1 月に再び緊急事態宣言が出されたこともあり街への影響が大きくなる可能性がある。街の店がどのような影響を受けているのか、今後、さらに詳しくみていく必要がある。

②**回遊性が低い**：都内の他の地域と比べても神保町には公園が少なく人が回遊したり滞留したりするゆとりが少ないことがわかった。これは、カフェが都市の中で安らげる場所になる可能性が高いことを意味する。また、神保町には独特のにぎわいがあるが、カフェ



（出典：RESASで提供されているNTTドコモの携帯電話位置情報による混雑統計データーより著者作成）

はそうした人と人とのつながり（ソーシャル・キャピタル）を育む場所になり得る。神保町の「ソーシャル グッド ロースターズ」はその代表的な例である。ここでは障がい者を雇用しバリスタや焙煎士などの技術を習得し活躍している。そして障がい者がそこを訪問する人たちと新たな関係を作り上げていっている。そうした場を提供するカフェの可能性は大きい。

③**神保町にしかないもの**：デジタル経済化の一つの特徴は、少ない司令塔で多くのことを管理できることである。そのため、中間の階層などを飛ばす「中抜き」が可能になる。都市においても、中間的な工業都市であった地方都市は周縁化しており「勝ち組」「負け組」の都市の差が明らかになってきている。こうしたデジタル経済化が進む中で生き残るには、「そこにしかないもの」をどうやって提供できるかが重要になる。神保町の古書店街はそうした宝庫であるが、一方では弱点でもある。というのは、一つ一つの店は特色があるが、他の店が扱っているような本への消費者の関心は低い場合が多く、広がりに欠ける場合も多いからだ。一方、コーヒーに関しては神保町には世界的に有名なミカフェートの本社などがあり、新しいタイプの店も増えてきている。多様な楽しみ方を提供できる神保町には比較優位があり、可能性が高いことも分かってきた。

4. 成果

①長期的街づくりの提案書：調査にもとづく提案書を作成中。

②「コーヒーの街、神保町」を発信するための HP を立ち上げ、記事の掲載を開始（https://jimbocho-coffee.com）

③神保町のコーヒーマップを作成し近日中に HP に掲載予定。

④大学予算により、神保町に本社のあるミカフェートと連携し「神保町発、明治大学 SDGs コーヒー」を開発（写真）。明治大学オフィシャルグッズのオンラインストア（https://meidaigoods.net）で販売を開始（2 月より）。コロンビアで障がい者を雇用しコーヒーを生産しているフェダール農園のコーヒーを使用したもの。

地域貢献プロジェクト

広く地域の皆さまへ大妻女子大学の教育と研究成果を還元し、皆さまの多様な学習ニーズに応えるとともに地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることを目的として、平成 26 年度からスタートしました。

今年度は 3 件のプロジェクトが採択されています。

令和 2 年度 地域貢献プロジェクト採択課題

若い男性女性および学生のプレコンセプションケアの支援
（家政学部 食物学科 教授　川口 美喜子）

ハーブ植栽と調理体験による地域教育プログラム
（短期大学部 家政科 専任講師　田口 裕基）

中野地域の帰国小学生の英語力保持へのサポート
（英語教育研究所 教授　服部 孝彦）

大妻女子大学地域連携推進センターは、地域を対象とした教育・研究活動等を通じて、地域の皆様方と交流を深めるとともに、本学が持つ知的資産を地域へ還元し、地域を発展させるための取り組みを行って参ります。

地域連携プロジェクト報告

大妻女子大学では、学生の主体性や自立心が身に付く地域連携活動の一層の推進と発展を図ることを目的として、平成 25 年度に「地域連携プロジェクト」を創設しました。「地域社会との連携を活性化するとともに、学生の教育に資する活動」をテーマに、今年度は 4 件のプロジェクトが採択されています。

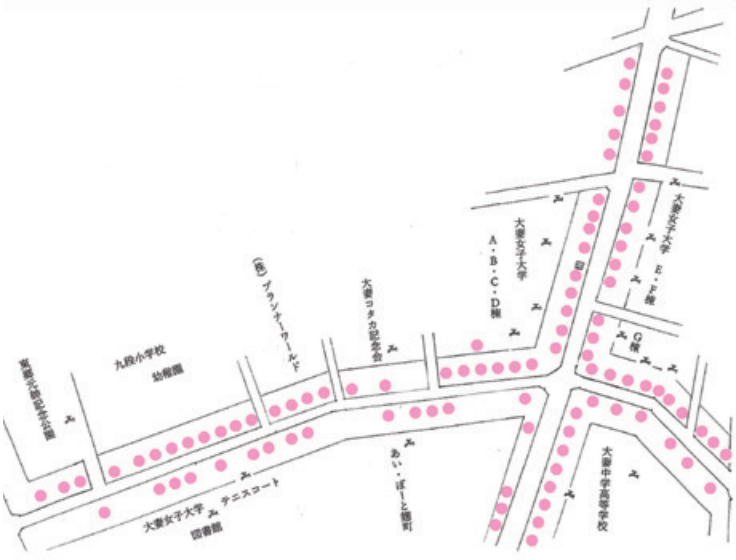
三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動

代表者：家政学部 児童学科 教授　石井 雅幸

三番町アダプト・フラワーロードの会という名称で、九段小学校、三番町町内会、（株）プランナー・ワールド、あい・ぽーと麹町、大妻学院が協定を結んで 2007 年から行ってきている取り組みです。

この会は、三番町を通る番町学園通りの街路樹下の区画にお花を植えて、町会内を美しく飾りましょうということでスタートしました。この会がスタートした頃は、児童学科の有志の学生と教員がボランティアとして参加していました。今では、児童学科児童教育専攻の 1 年と 2 年の学生が全員参加して行っています。これまで、6 月と 11 月に街路樹下の区画に夏のお花、冬のお花を植えてきました。また、土が乾燥してしまうので、お花に水をあげたり、雑草を抜いたり、枯れてしまったところに新たに花を追加したりしています。お花を植える活動は、九段小学校の児童全員、三番町町内会のみなさんと行ってきました。ところが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏のお花植えができず、秋に行った冬のお花植えは、三番町町内会の皆さん、プランナーワールドの方々、あい・ぽーと麹町の職員の皆さんと本学の児童学科の学生ならびに大妻中高の生徒さんとで植えることになりました。その後も、地域の皆さん、工事現場の皆さん、そして、本学科の 1，2 年の学生とでお花に水をあげたり、ゴミ拾いをしたりしてきました。九段小学校のみなさんと一緒の活動ができませんでしたが、花が植わった道を小学生がうれしそうに歩いている姿や、水やりを行っていると学生たちへの励ましの言葉をかけてくださる地域の皆さんのおかげで、すてきな三番町がさらに明るい町になっていっているような気がいたします。

今後も三番町が明るい声が響くすてきな町であり続けるお手伝いを少しでもできるようにしていきたいと思っています。



プロジェクト構成員：大妻女子大学 家政学部 児童学科 児童教育専攻
厚東 芳樹准教授、林 明子専任講師、酒寄 翠助手、
及び、児童学基礎体験演習の履修学生

「防災と言わない防災」の実現に向けた私たちのチャレンジ

代表者：人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 准教授　堀 洋元

〔目的〕

プロジェクト活動５年目である今年度は、オンラインゼミでの体験学習やディスカッションを通して絞り込んだ４つのアイデアを形にして、多摩市 ONLINE 文化祭への作品出展および地域の方々に向けた防災企画のプレゼンを行いました。コロナ禍において、防災のためだけでなく日常生活とリンクした防災への取り組みとなることを目指しています。

〔プロジェクトの概要〕

１．防災に役立つアイデアの体験学習

オンラインによるゼミの中で、防災に役立つアイデアを実際に体験しました。具体的には、各自に配付した防災食と自宅にある食料備蓄からランチを作り、より美味しくするためのアイデアを出し合いました。初めて防災食を食べた人がほとんどで、「トッピングをすると味が変わって飽きずに食べられた」「備蓄するなら美味しいものにしようと思った」など、実際に味わったからこそ分かる体験を共有することができました。また、“東日本大震災が起こったとき、どこで何をしていたか”について一人ずつ話しました。それぞれが違う場所で、そのとき何をしていたかを共有でき、ゼミとしての一体感が高まった経験になりました。

２．体験学習の成果を発信するための活動

夏休み期間中に学びの成果を発信するための活動を行いました。女子大学生の視点から「防災食とそのレビュー」、「防災グッズの紹介」、「段ボールベッドの紹介」、「身近な材料による防災グッズづくり」を作り、動画にして発信することになりました。

３．多摩市 ONLINE 文化祭への参加、地域住民対象の防災講座での発表

ほっとネットしょうぶ（唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会）定例会で防災講座を実施しました。また、初開催となる配信イベント「みんなでつくる多摩市 ONLINE 文化祭」にエントリーし、学びの成果を動画にして、私たちの活動成果を発信しました。初対面の地域の方々の前での発表、慣れない動画の撮影・編集作業など、初めてづくしでしたが、それも「私たちのチャレンジ」として取り組めました。実施に先立ち、10 月初旬に初めて対面でのゼミを行い、全員集合での初顔合わせとなりました。その日の感激や楽しかった気持ちが動画の中にパッケージされています。

初の対面ゼミ

防災講座でのプレゼンと実演①②

オンライン文化祭での作成動画①②

〔プロジェクトの効果〕

主にオンラインでの活動となりましたが、今回の活動を通じて同じ体験を共有すること、同じ目標に向かってチャレンジすることができたのではないかと思います。地域の方々に向けての発信は、実際に経験することで新たな目標ができ、その思いを次のゼミ生に託すこともできました。持続可能な目標を持ってゼミで取り組んでいこうと思います。

からきだ匠（たくみ）カフェ～地域がつながる場所～

代表者：人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 准教授　八城 薫

♪テーマソング
「からきだ匠カフェ～笑顔の咲くところ～」

からきだの道に　百本シダレ
桜咲くこの街に　はじまる物語
からきだ通りに　咲くハナミズキ
唐木田のこの店に　集まる昼下がり
歳のせいだとか　病気のせいとか
そんなことは忘れて　笑顔咲くところ
からきだ匠カフェ　だれもが匠だね
笑顔と歌で　広がってく
世代を超えて　僕らをつなげる　架け橋さ

多摩キャンパス（唐木田）周辺は病院、福祉施設、教育施設など様々な施設が存在し、身体や心に不安を抱えても安心して暮らすことの出来る環境が整っています。そこで働く専門家（匠）集団が連携して吸引役となり、日頃から地域の様々な属性、世代の方々と繋がるような居場所づくりをすることで、いざという時に助け合えるような地域でありたい。そんな想いから 2017 年度 4 月、あい介護老人保健施設、社会福祉法人 楽友会、多摩市社会福祉協議会の方々との連携で活動をスタートさせ、このプロジェクト“からきだ匠カフェ～地域がつながる場所～”が生まれました。

「からきだ匠カフェ」は今年度、毎月第 4 水曜日の 14 時から 2 時間ほど、唐木田駅から徒歩すぐの“Planet Café（プラネット カフェ）”さんのご協力をいただいています。

新型コロナウイルス感染拡大による混乱により、4 月から 9 月までは実施することができませんでしたが、10 月から徐々に活動を始めています。11 月からは、カフェと施設、自宅などをオンラインでつなぎ、対面とオンラインのハイブリッド型の活動となっています。

学生は主に、社会・臨床心理学専攻の学生が企画メンバーとして活躍してくれています。動画で新しい拠点となったプラネットカフェから駅までを紹介したり、オンライン上で「モノしりとり」をしたり、LINE や zoom の使い方を年配の方々に教えたりと、地域の方々とつながる架け橋になってくれています。

お子様からお年寄りまで、様々な方々で一緒に楽しむ場所・空間づくり、「共生社会」の実現を目指す本学学生の実践の場づくりを目指して、これからも楽しく活動を続けていきます。

活動内容

10月28日(水)　匠カフェ再会(再開)！　～近況報告会～
11月25日(水)　匠カフェの新しい拠点､プラネットカフェを知ろう！
　　＆オンライン匠カフェも試します！
12月16日(水)　カフェとオンラインで繋ぐクリスマス！ ～みんなでゲームを楽しみましょう～
1月 27日(水)　オンラインで繋ぐ新年会！ ～こころもからだもほぐしましょう！～
2月 24日(水)　オンラインで繋ぐボディワーク！ ～座ってできるストレッチ体操～
3月 24日(水)　新年度に向けて　～出会いと別れと～

※上記の企画実施のために、毎月 1 回程度で企画会議を行っています。

未来を育む食と健康プロジェクト
～SDGsにつなげる食育媒体の開発と実践～

代表者：短期大学部 家政科 教授　堀口 美恵子

【目的】

食を通じた幸福感や快適な生活環境は、生活に潤いを与え心身の健康力を向上させる。このような観点から、栄養士を養成する本専攻では、多世代に対する食育の実践を積極的な社会貢献活動につなげてきた。本プロジェクトでは栄養士の立場からSDGsに着目した食育に取り組み、人々の食・健康・環境に対する意識の向上を通じて心身の健康作りに貢献することを目的とした。

【主な活動内容】

1）SDGsにつなげる食育媒体の制作と活用

栄養・食・健康に関する問題は、SDGsの各目標に影響を及ぼす重要な要素である。今回はユニセフや外務省、農林水産省、環境省から発信されている情報、及び、小学校の学習指導要領等を参考に食育媒体やポスターを制作した。子ども向けの媒体については、近隣の子育て支援グループの方々にもオンラインで体験して頂く予定である。

2）「地球に優しいエコクッキングレシピコンテスト」の実施

食材を無駄なく使い尽くして作ること、糠やおからなどエコな和食材を使用すること、調理操作が簡単であること等、食材の購入から片付けまでに配慮したレシピを学生や卒業生が考案した。教員、及び、管理栄養士、学校栄養職員等の資格を持つ卒業生が審査の上、入賞したレシピについては調理動画等を作成して公開し、身近な食べ物からSDGsにつながることを具体的に伝える予定である。また、玄米流通用の米紙袋を有効活用するエコなクラフト等についても提案する。

3）地域連携活動

ちよだコミュニティラボ事務局（千代田区地域コミュニティ醸成支援事業）が主催する「ちよだコミュニティ　ラボライブ！ 2021 ～千代田の人に出会おう！共に課題解決に挑もう！～」に参加（令和3年3月13日にオンライン開催）し、本プロジェクトの成果を報告して評価を受ける。また、今まで培ってきた地域との関係性を活かすための課題について、区内他団体の方々と共に検討する。

【まとめ】

栄養・食を通じて人々の健康と幸福に貢献する栄養士の立場から、SDGs達成につなげる食育活動を実践した。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していた対面でのイベントが実施できなかった一方、地域連携活動に向けたオンラインでの意見交換や情報共有については今まで以上に行うことができた。今後も様々な方法で、SDGsにつながる地域連携活動を目指したい（SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」）。

大妻さくらフェスティバル俳句大賞

大妻さくらフェスティバルのイベントの一つとして、俳句大賞を実施いたしました。今年度は「春の植物」「家」をテーマに、全国各地の幅広い年齢層の皆様から、1,372 句の作品が寄せられました。たくさんのご応募ありがとうございました。厳正な審査の結果、入賞した作品を発表します。

理事長・学長賞

テーマ「春の植物」

一般の部

菜の花に溺れてをりぬ古地蔵

埼玉県さいたま市　関　とし子〈七十五歳〉

中学・高校生の部

暗闇に光輝き桜咲く

石川県金沢市　本橋　海南〈十六歳〉

小学生以下の部

菜の花の公園のはじ目立ってて

東京都江戸川区　田中　陽莉〈十歳〉

テーマ「家」

一般の部

百年の軒に燕の三家族

埼玉県戸田市　吉田　サタ子〈八十六歳〉

中学・高校生の部

引っ越しの居間春愁の写真立て

愛知県名古屋市　水野　結雅〈十三歳〉

小学生以下の部

家のまどあけるときれいなもみじあめ

東京都江戸川区　藤井　逞弘〈九歳〉

※理事長・学長賞は全テーマ、全部門から選出しています。

優　秀　賞

テーマ「春の植物」

一般の部

沈丁の香をすり抜ける夜のあり
東京都練馬区　猪俣 ま悠〈三十二歳〉

制服の折り目新し沈丁花
埼玉県春日部市　中野 弘樹〈七十五歳〉

オンライン授業窓辺にスイートピー
神奈川県横浜市　蛭田 恒美〈七十歳〉

中学・高校生の部

たんぽぽや路地裏に咲く黄一色
東京都練馬区　住岡 京政〈十三歳〉

妹と二人で取った野の蓬
東京都練馬区　武 日菜子〈十三歳〉

菜の花や歩んでゆくたびゆらゆらと
石川県金沢市　金谷 愛理〈十五歳〉

小学生以下の部

気のせいかさくらが一度笑ったよ
東京都江戸川区　御山 琉愛〈十歳〉

紅梅はきらきらかがやくイヤリング
東京都江戸川区　前川 日和〈九歳〉

一列に並び手つなぐチューリップ
鹿児島県日置市　松下 奈央〈九歳〉

テーマ「家」

一般の部

孫もはや女子大生に雛の家
千葉県柏市　渡会 克男〈七十一歳〉

定位置のソファーのくぼみ目借時
東京都調布市　大槻 さやか〈四十八歳〉

俎板の音やはらかく驟雨止む
神奈川県川崎市　久保田 聡〈五十五歳〉

中学・高校生の部

卒業の朝両親と鍵かける
石川県金沢市　桶本 みつき〈十五歳〉

一年生小さな背中に彩りを
石川県金沢市　澤井 里緒〈十五歳〉

金風に茅葺きの家呼吸する
宮城県仙台市　横溝 麻志穂〈十六歳〉

小学生以下の部

ねていたらほっぺにさくらまた一つ
東京都江戸川区　佐藤 琴奈〈九歳〉

かすみでねわらのおうちがかくれたよ
東京都江戸川区　柴原 いろは〈九歳〉

イベント団体紹介

千代田区立九段小学校
九段囃子の会

「九段囃子」は九段小学校の特色ある教育活動の一つとして、３年生から６年生が地域の方に指導していただいています。週に一度、金曜日に活動してきました。（今年度は感染症対策のため活動を休止しています。）

お囃子はお祭りには欠かせないものです。その音は日本人の心に心地よくしみわたっていきます。九段囃子の活動は、子どもたちが日本の伝統文化を通じて地域行事や地域の活動に触れる、よい機会となっています。

東京のお祭りを華やかに盛り上げる江戸祭囃子（えど まつりばやし）。始まったのは、江戸幕府八代将軍・徳川吉宗の時代と言われています（諸説あり）。九段囃子が普段お稽古している「箕輪屋流（みのわやりゅう）」では、「屋台」、「昇殿」、「神田丸」、「鎌倉」、「仕丁目」そして最初に戻って「屋台」で終わる組曲を「ひとっぱやし」として演奏を行っています。

千代田区立九段小学校
九段Planets

「さくら茶フェス」の頃より 10 年以上にわたり、毎年「大妻さくらフェスティバル」に参加させていただき､多くのことを学ばせていただいてまいりました。１年間のまとめのステージとして、６年生との最後のステージとしての貴重な機会に、昨年度に続き参加できず、本当に残念でなりません。来年こそは参加できますことを強く願っております。

また、大妻女子大学の先生方や学生の皆様には、理科の学習をはじめ、ふれあい体験広場・お月見会・地域の花植え・校外体育などで、ご指導・お世話をいただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

演奏で参加させていただくことは叶いませんでしたが、〈九段 Planets〉の紹介をさせていただきます。〈九段 Planets〉は、本校の特色ある教育活動として年々人気が高まり、本年度は４・５・６年生の希望者６５名が毎朝体育館に集い、音楽で一日のスタートを切っています。九段小といえば〈Planets〉と云われるほど、九段小の顔として、千代田区内はもとより、全都から耳目を集めるバンドに大きく成長しています。学校行事や集会をはじめ､これまでに「東京都管楽器演奏会」「千代田シーズン・コンサート」「千代田区 子どものための文化祭」「千代田区 敬老会」などで演奏を披露してきました。また、東京都の代表として「全国管楽器合奏フェスティバル」にも出演させていただきました。

本年度は、活動を休止せざるを得ない期間が長く、十分な音楽づくりが難しい状況でしたが、来年の「大妻さくらフェスティバル」でさらに大きく成長した姿をご覧いただけますよう、これからもメンバー一同心を合わせて日々の活動を積み重ねてまいります。

大妻嵐山中学高等学校

ダンス部

ごきげんよう。大妻嵐山中学校・高等学校ダンス部です。このような情勢の中、大妻さくらフェスティバルに参加することができ、部員一同大変嬉しく思っております。

私たちは、中学生・高校生共に楽しく活動しています。中学生は、文化祭など校内や校外でのイベントの発表に向けて練習に取り組んでいます。高校生は、創作ダンスのコンクールの入賞、特に神戸で行われる全国大会での入選・入賞を大きな目標としています。

創作ダンスをメインとして、バレエ・ジャズダンス・ヒップホップなどの幅広いジャンルに挑戦しています。私たちは、技術向上に向け、日々練習を重ねています。コロナ禍での部活においては、Zoom を用いた活動や鑑賞等、オンラインでの練習に励んでいます。

今回の動画は、今年度行われた本校でのオンライン文化祭や、全日本高校・大学ダンスフェスティバル～神戸～（オンライン）の参加作品を編集した作品集です。

実際に踊ることが出来なく、とても残念ではありますが、見てくださった皆様に楽しんで頂けたら幸いです。

・掲載期間：3/26(金) ～ 3/28(日)
・ＵＲＬ　：http://www.chiiki.otsuma.ac.jp

動画はこちら▶

図書館職員オススメ!

春に読みたい本 8選

家で過ごすことが多い今日この頃、自宅で読書する機会が増えた人は多いのではないでしょうか。そんな皆さんに図書館職員オススメの「春に読みたい本」をご紹介します。外出しづらい今、本の世界で春を感じてみませんか。

和の色のものがたり 季節と暮らす365色

早坂優子 著
視覚デザイン研究所 2014年

二十四節気に合わせて
伝統色を紹介しています

萌黄色 モエギ	薄紅梅 ウスコウバイ	桃色 モモ
青柳 アオヤギ	桜色 サクラ	藤色 フジ
支子色 クチナシ	山吹色 ヤマブキ	躑躅色 ツツジ

日本の桜

川崎哲也 解説　奥田實・木原浩 写真
山と渓谷社 1993年

あなたは、

いくつの桜を知っていますか？

麒麟　朱雀　鵯桜　椿寒桜　一葉
普賢象　楊貴妃　福禄樹　白雪
翁桜　鷲の尾　思川　関山　鬱金
湖上の舞　雪洞桜　豆桜　天の川

万葉集名花百種鑑賞

川上富吉 編
新典社 2015年

かつて梅は春をよぶ花として愛されました
また歌に詠まれた桜とは現在のソメイヨシノではなくヤマザクラが中心でした
あなただけの春の歌を見つけてみませんか

はるかぜさんといっしょに

にしまきかやこ えとぶん
こぐま社 1975年

さくらの花びらを優しく遠くまで
吹き飛ばすはるかぜさんに呼ばれ、
ひとりでついていった、こんちゃん。
でも、いつの間にか街中の人々も
一緒に…。
みんなでたどりついた場所とは？
コロナ禍で迎える春だからこそ、
はるかぜさんと一緒に春の空の下で
のんびり過ごしてみませんか？

日本の食卓：春
今だから伝えたい旬の献立帖

幕内秀夫・野﨑洋光 著
アスペクト 2013年

「分とく山」総料理長の野﨑洋光さんの

春を感じる献立が満載です。

旬の食材を上手に調理して食卓の

彩りを楽しむ文化を楽しめます。

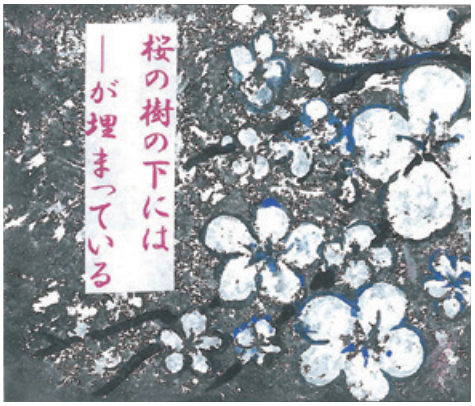
事典 和菓子の世界
増補改訂版

中山圭子 著
岩波書店 2018年

美味しい和菓子を通じて
日本の春を感じる…。

櫻の木の下には
（梶井基次郎小説全集 より）

梶井基次郎 著
沖積舎 2007 年



NHK CD BOOK
イギリスの詩を読んでみよう

小林章夫 著
日本放送出版協会 2007 年

英国詩人ワーズワースの
“Daffodils（水仙）”

学生時代に暗唱させられて
当時は何とも思わなかったのですが

最近になって、春の日のふとした時に

その詩の美しい情景の断片が
脳裏にうかぶようになりました

（としかしらん…）

大妻古本募金

読み終えた本を寄付しませんか？

不要となった書籍を地域連携・地域貢献を目的とする活動資金として使用させていただきます。

「大妻古本募金」は、みなさまのお手元にある不要になった書籍の売却額が株式会社バリューブックスを通じて全額大妻学院への寄付金となる仕組みです。大妻さくらフェスティバル 大妻古本募金でいただいた寄付金は、大妻女子大学地域連携推進センターの活動に使用させていただきます。

※未成年者の方は必ず保護者の方にご相談いただき、本学の趣旨にご賛同いただいた上で、ご寄付いただけますようお願い致します

大妻古本募金の対象となるもの

2010年以降に発行された書籍

2010年以前に出版された本のほとんどがお値段をつけることができないため、「2010年以降に発行された書籍」と限定させてください。

大妻古本募金申込

WEBでお申し込みください。

https://www.charibon.jp/donation/action.cgi?id=265

お申し込みいただく際、入力画面の「集荷先情報」の**「氏名」の前にアルファベットの「A」を入力してください。**氏名の前に「A」が入力されている方の古本募金は大妻さくらフェスティバルによるご寄付として頂戴いたします。

ご自宅で段ボール箱に詰めてWebで申込みをするだけ。**5点以上から上限3箱までなら送料はかかりません。**お部屋のお掃除で見つかった読まなくなった本をご寄付ください。

※買い取り価格は需要と供給で決まるため、寄付していただいた本の状態が良くても値段がつかないこともありますので、ご了承ください。

※大妻古本募金では、値段がつかない本を運営会社の株式会社バリューブックスを通じて国内の福祉施設、図書館、海外の教育研究機関に寄贈します。

※税制上の優遇措置（寄付金控除）の対象となります。ご希望される場合は確定申告が必要となりますのでお手続きをお願いします。

「先輩から後輩へのリレーメッセージ」配信中！

大妻女子大学地域連携センターのWebサイトにて、本学で学んだ先輩から後輩の皆さんへメッセージをつなぐ「先輩から後輩へのリレーメッセージ」動画を配信しています。
大妻女子大学と社会で活躍する本学卒業生の魅力を感じていただければ幸いです。

フラワーロードの会 活動報告／花の紹介

千代田区三番町の街路樹の脇に咲く、小さく、かわいらしい花たちをご覧になったことはありますか？
地域連携プロジェクトの一環で、フラワーロードの会が中心となり花植え、手入れを行い街の美化に貢献しています。今回は実際に栽培している花の一部をご紹介します。ぜひ花の名前を覚えてみてください。散歩の時に道端の花を眺めてみれば、いつもの散歩道も少し違う風景に見えるかもしれません。

フラワーロードの会とは
九段小学校、三番町町会、株式会社プランナー・ワールド、大妻学院が協定を結んで2008年から行なっている取り組みで、「三番町を通る番町学園通りの街路樹下の区画にお花を植えて、飾りましょう」をコンセプトにスタートしました。春と秋の年２回、およそ2,600鉢の花を、90箇所の植樹枡に、地域の方々と協力しながら、花植えを行なっております。

ノースポール
マーガレットに似た花をつけます。平均して3～5cmの花をつけます。花色は中心が黄色、花弁が白。葉はギザギザした、のこぎりのような形をしています。プランターや花壇に群植すると映えます。
開花期：12月～ 5月

パンジー
パンジーの流通は10月頃から始まるため、上手に育てれば半年以上も開花します。現在は品種改良が進み、毎年新品種が出ています。色合いも豊富です。
開花期：10月～ 5月

クリサンセマム・ムルチコーレ
明るい黄色の花を咲かせます。株は這うように低く広がって増えていきます。花数が多いのも特徴です。ゴールデンウィークの頃まで花壇を明るい黄色で賑やかにしてくれるかわいらしい花です。
開花期：3月～5月

ミニハボタン
彩りの少ない冬花壇に最適です。ハボタンは、植物的にはキャベツそのものですが、葉を鑑賞するために改良された日本独特のものです。日当たりの良い戸外で栽培します。
開花期：11月～ 3月

ビオラ
寒さに強く、適切な手入れをすれば次々と花が咲くので初心者でも育てやすいと言われています。パンジーと比べて小ぶりなのが特徴です。最近は品種改良が進み、小指の爪くらいの小さなサイズもあります。
開花期：10月～ 5月

Otsuma Women's University

千代田のさくらまつり
「大妻さくらフェスティバル 2021」実行委員会
委員長：井上美沙子（大妻女子大学地域連携推進センター所長）
委　員：成島由美、今村勉、桝渕富士子、持田修、相浦綾子、秦野珠美、山中孝一、栗田陽介
〒102-8357 東京都千代田区三番町 12 番地 大妻女子大学内
TEL：03-5275-6877　FAX：03-5275-6800　E-mail：chiiki@ml.otsuma.ac.jp

大妻多摩高等学校　1年　加藤 真凜

大妻嵐山高等学校　1年　伊藤 千尋

大妻嵐山高等学校　1年　金岡 きさら

大妻嵐山中学校　2年　篠沢 雪乃